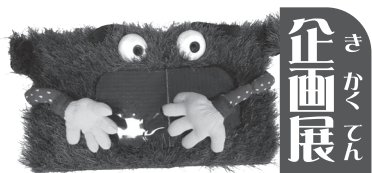


4.26日①▶6.29日①



勇弘幻視

北海道、勇弘原野のイメージをたどる

砂田友治・北川豊・高橋伸・高橋正敏



イラスト
おおはしかつひと
大橋 尊人

継続した子ども記者と新しい子ども記者による2025年度のびとこまが始まりました。早速苦小牧ゆかりの画家と苦小牧に来てくれた天心さんの作品を目の前にして、取材にも熱がこもりました。びとこまの面白いところは新しい子ども記者もいつの間にか馴染んで、ベテラン記者のように自分の得意を發揮しているところ。話し合いながら自分たちの納得できる仕上がりを決められるところ。今年も楽しい紙面を作っていきます！



レオちゃん

作者がちがうと、同じような絵でも筆づかいや色、作品の中にある風景、人物から作者の気持ちや表し方、工夫がよくわかった。

(山本文太郎)

《挽歌—北の空》の虫めがねにうつる目がみどりいろでとてもかわかったです。ホラー映画にできそうでした。

(大原ちづる)

- ・だまし絵みたい
- ・ぬのがくついたらみたい

(吉本なつか)

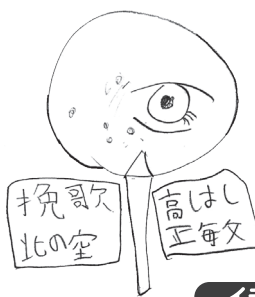


イラスト
おおはしかつひと
大原ちづる



イラスト
おおはしかつひと
大原ちづる

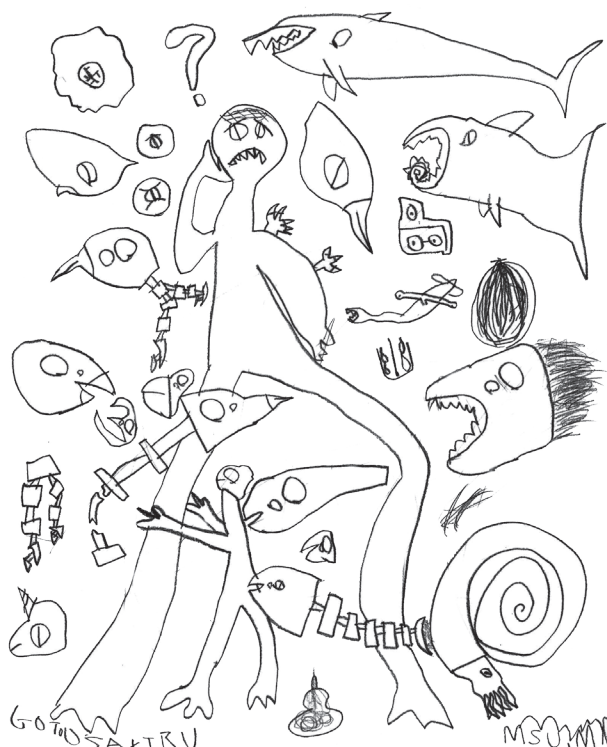


イラスト
ごとうさくたろう
後藤咲多朗

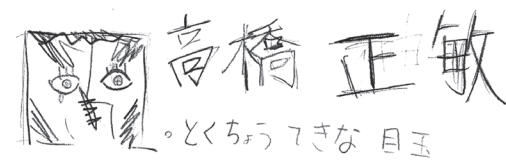


イラスト
たなか みずき
田中 瑞紀



イラスト
おかもと なごみ
岡本 和



多感な時期を苦小牧で過ごした4人の画家の作品を展示

企画展「勇弘幻視／北海道、勇弘原野のイメージをたどる—砂田友治・北川豊・高橋伸・高橋正敏」では、多感な時期を苦小牧で過ごしたという共通点をもつ4人の画家の油彩画を展示しました。展示会名の「勇弘」は、苦小牧を象徴する「勇弘原野」からとっています。「幻視」は、心のイメージや幻が現れてくるのを見てもらいたいという思いを込めています。4人ともとても大きくて幻想的な作風が特徴です。作品の印象について、絵で応えてくれた記者もいましたね。絵だからこそ表現できる、言葉にならない思いを感じてもらえていたらうれしいです。



たてしがつけいけん
立石学芸員

4.26日①▶6.29日①

苦小牧 ゆかりの書

市内
所蔵品展

特集
展示

ぼくは、特集展示の苦小牧ゆかりの書の展示のことが気になりました。ぼくがさいしょに目にしたのは、桑原翠邦さん作の《幽》です。

《幽》の「幽」の所がたてにりんごのマークが2こあるようにかいていて、ぼくも書けたりしないかなと思った。



おかもと
岡本 到



イラスト
おかもと いたる
岡本 到

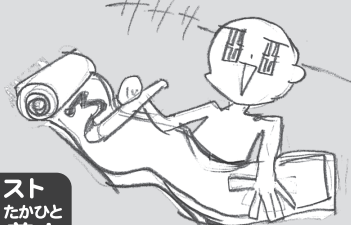


イラスト
おおはしかつひと
大橋 尊人